

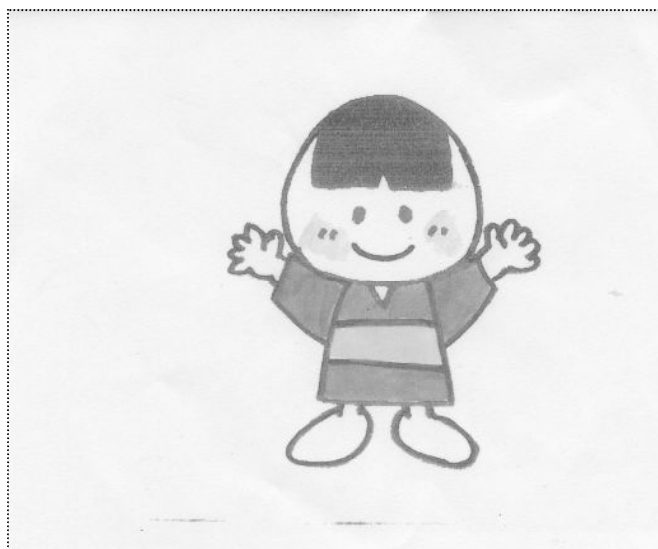
ばれっと

2011
2月
No.138

P2~3 **すぽっとらいと**

『食育NPO「おむすび」』

食の大切さ、伝えたい



私は「おむすび」のマスコットキャラクター、「おむすびちゃん」です。団体のパンフレットやニュースレターに登場しています。

<目次>

-
- P4… サポちゃんで行く骨工口施設見学！ エル・パーク仙台の巻
 - … お知らせ
 - P5… 事業報告『市民活動カラフルフェスタ』
 - P6… サポセンカレンダー

すぽっとらいと

◆仙台市内で活動している団体にスポットをあて、その活動の様子や運営のノウハウをご紹介します。

食の大切さ、伝えたい 食育NPO「おむすび」

「つくる人と食べる人をつなぐ」をキーワードに活動する「食育NPO おむすび」。料理教室や『おむすび通信』の発行を通して、人と人、食と人をつないでいます。

今回は、代表の清水智子（しみずともこ）さんに、活動概要や活動の中で伝えたいメッセージについて伺いました。



▲「おむすび」のみなさん

●「わたしたち」からできること

「食育NPOおむすび」（以下「おむすび」）の始まりは、みやぎ生協の産直活動でした。そこで出会った仲間が、生協活動の中で培ってきたスキルを活かして、若いお母さんや子どもたちに食べることの楽しさ、大切さを伝えていきたいと考え「食育NPOおむすび」を2007年7月にスタートさせました。

「おむすび」は、「食」の楽しさ・大切さを伝えていくことを目的に、生産者と消費者をつなぐ活動をしています。生産者はこだわりを持って生産に取り組み、そして収穫された食べ物には一つ一つ物語があるのです。その物語を伝え、「つくる人」と「食べる人」をつなぐために「楽しく学ぶ場をつくっていきたくて考えました」と清水さん。

しかし、同様の活動を行うのであれば、みやぎ生協の産直活動でもできるはず。なぜ独立してNPOとして活動を始めたのか、その理由を伺うと「大きな組織だからこそできること、小さな組織だからこそできることがそれぞれあります。食というテーマを伝えるには、色々な人たちが色々な形で伝えることが大事であり必要なことです。家族の食卓を守る私たちだからこそできる活動がしてみたかったのです」とお話しして下さいました。

●フードチェーンをつなぐ

「現代では、生産者（生産現場）と消費者（食卓）の距離が遠くなり、フードチェーンが分断されています」と清水さん。フードチェーンとは、生産から流通そして食卓への生産物の流れのことを言います。私たちが普段買い物をするスーパーマーケット等に並ぶ多くの商品は、せいぜい産地が記載してある程度ではないでしょうか。「おむすび」はそういった状態を、フードチェーンが分断された状態と捉えています。生産の現場が消費者側からしっかりと認識できる状態で、「地産地消」という言葉通り、地元宮城県で取れた食材、可能であれば生産者の顔とつくり方がわかること

が、「おむすび」が考えるフードチェーンがつながった状態です。

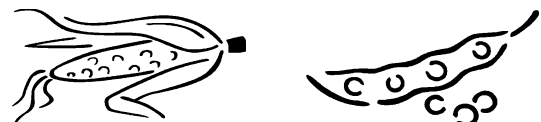
フードチェーンがつながった状態であるためには、生産者や販売店等の努力が必要ですが、一方で消費者もフードチェーンを意識して購入することも必要です。「おむすび」ではイベントを通して、消費者にもフードチェーンを意識してもらう取り組みを行っています。

例えば、「親子で市場を体験しよう！」では仙台市中央卸売市場を親子で見学し、競り市の体験などを通じて食卓に上がる食べ物がどこから来ているのか理解を深めています。「お魚がきつと好きになる料理教室」は、旬や季節の食べ物など食文化を意識した献立をつくり、料理教室の合間に食文化や食材のお話を織り交ぜ、料理だけでなく「食」に関するさまざまなことを学べる料理教室を行っています。

料理教室にトマトが嫌いな子どもが参加した時のこと。トマト農家の方のトマトにかける思いを清水さんが紹介すると、初めは嫌がっていた子どもが、いつの間にか“ひとくち”トマトを食べていたそうです。「無理強いをしたわけではなく、その子ども自身がトマトの物語を理解したため、興味を示したんだと思います。別な家庭では、料理教室を受けてから食卓にお魚が並ぶようになったという例もあるそうです。こういった意識が広がればフードチェーンもつながり、輸入物に押されている生産者の方々にも、卸売り価格の向上など少しでも還元できると考えています」



▲「親子で市場を体験しよう！」の様子



●つながるための情報発信

「おむすび」の特徴ある活動の一つに「団体の活動に関する情報発信」があります。ブログでタイムリーな事業報告を行い、ニュースレターの『おむすび便り』では、旬の食材情報や生産者・協賛企業の方のコラムなど、読み応えのある情報を発信しています。「私たちの活動は、消費者と生産者をつなぐ接点としての役割があるので、ネットワークづくりを大切に考えています。ですから、つながる人がいそうな勉強会などには必ず参加するようにしていますよ、名刺とニュースレター持ってね」と清水さん。

ネットワークを重要視する「おむすび」が取り組む情報発信は、これだけに留まりません。協賛や協力を頂いた企業には『おむすび便り』を送るだけでなく、事業が終わる度に報告書を作成し、参加者アンケートと一緒に報告しています。そうした取り組みが団体への共感を呼び、さらなる支援の輪につながっています。また、情報を発信することで色々な団体から、料理教室などの企画のお話を頂くことも増えたそうです。清水さんに他団体とつながった成果を伺うと、「メンバー4人ではできなかったことができるようになったり、活動に広がりがありました。そして、それがまた次のネットワークづくりにつながっていきましたね」とお話し頂きました。

●食べること=生きること

現在、日本の食料自給率は40%、逆に言うと既に60%を輸入に頼る食糧輸入大国とも言えます。今、ニュースで話題のTPP（環太平洋戦略的経済連携協定）について清水さんに伺うと、「関税なしに安い農産物が大量に輸入されると、日本の農業をはじめとする一次産業は成り立たなくなります。また、農業の持つ他面的な機能も失われてしまいます」と、大いに心配されていました。

「おむすび」が思い描く社会は、生産者やその後継者が元気に生産を続け、生命を支えていく一次産業を大事にしていく社会。「そのため、現代ではおろそかになっている“食べること=生きること=大切なこと！”をもっと伝えていきたい」と清水さんは力強くお話しして下さいました。

現代はマスコミなどで流される情報が氾濫し、消費者が自ら判断することが難しい時代になってきています。そのため「おむすび」は、活動を通じて生産現場の生の声や情報を提供するだけでなく、そこに家族の食卓を守る消費者としての目線を加え、『おむすび便り』や料理教室などの企画によって、多くの消費者向けに食の大切さを発信し続けています。

「家族の食卓を守る私たちだからこそ、わかりやすい言葉で、みんなに食の大事さを伝えられると思います」と清水さん。「おむすび」の挑戦は、始まったばかりです。

<団体情報>

食育NPO「おむすび」

「食」の楽しさ・大切さを伝えていきたいと、地域食材の活用（地産地消）、旬の時期、食べ物を生産する過程の学習・体験、伝統食・行事食づくり、食品の安全性に対する知識と適切な選択、食と環境保全などを取り上げた企画・運営を行っている。



▲「お魚がきつと好きになる料理教室」の様子

■ 連絡先

E-mail : tomokoomusubi0222@yahoo.co.jp
(代表 清水)

〒984-0822

仙台市若林区かすみ町1-47

TEL/FAX : 022-285-0824
(事務局 木村)

<ミニ情報>

『おむすび便り』、あります

「おむすび」のニュースレター、『おむすび便り』は、サポセン1階の情報サロンで手に入れることができます。バックナンバーを見ることもできますので、スタッフまでおたずねください。



▲バックナンバーの一部

★★ 取材を終えて

家族の食卓を守る消費者として活動を続けている「おむすび」さん。自分たちができることから始め、その活動を広げている状況は、団体運営の参考になる点が多くあります。

私は、何かと理由を付けて「食」をおろそかにしてしまうことが多々ありますので、今回の取材は「食」を見つめ直す機会になりました。

(担当：菊地 竜生)

サポちゃんで行く

『エル・パーク仙台』の巻

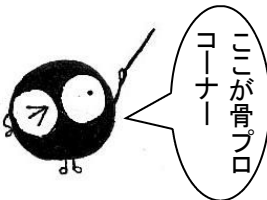
仙台に情報の背骨を通すプロジェクト（通称：骨プロ）とは？

市民による情報の受発信を支援し、市民活動に関する情報を多くの市民に届けるため、サポセンを含め仙台市内の11の公共施設が協力して行うプロジェクトです。このコーナーでは、各施設で「骨プロ」がどのように活用されているかをご紹介します。

エル・パーク仙台は、男女共同参画の推進と市民の生活文化の向上を目的につくられた施設です。ここでは、男女共同参画に取り組むさまざまな市民活動を応援するため、場の提供や情報提供、市民活動相談等に応じています。今回はスタッフの安彦さんと清野さんにお話を伺いました。

●骨プロで男女共同参画の裾野を広げる

エル・パーク仙台は、141ビル（仙台三越定禅寺通り館）の5・6Fにあります。中でも5Fにある「市民活動スペース」は、男女共同参画を推進するNPOや市民活動グループの拠点として多くの市民に活用されています。その市民活動スペースのイベント案内の一角に骨プロコーナーがあります。骨プロ運用を始めてからは、より幅広い活動分野の方が、骨プロをきっかけに集うようになったそうです。「男女共同参画について広める機会が増え、骨プロに参加して良かった」と清野さんより嬉しいお言葉をいただきました。



仙台市男女共同参画推進センター
エル・パーク仙台

仙台市青葉区一番町4丁目11-1
141ビル（仙台三越定禅寺通り館）5F・6F
Tel:022-268-8300（代）
Fax:022-268-8304

●顔の見えるコミュニケーション

エル・パーク仙台は、街中の商業施設の中にあることもあり、一般の方も多く来館されます。その場合も男女共同参画を推進する施設の機能を知っていただく良い機会と考え、特に市民活動スペースは市民活動を行う方々の交流の場として、より活発に活動を行ってもらうためのスペースであることを丁寧に説明します。スタッフ一人一人が、利用者とのフェイス・トゥ・フェイスコミュニケーションを心がけているそうです。

●活動に男女共同参画の視点を！

スタッフは、さまざまな分野の活動相談に積極的に対応しています。それは、少しでも活動に男女共同参画の視点を取り入れてもらえればという思いからです。

「例えば、団体運営の中で、自分も相手も大事にしながらかつ向き合い、率直な対話を実践していくと、グループの活性化にもつながります」と安彦さん。男女共同参画は難しく構えずに、お気軽に相談してみたいかがでしょうか。

（担当：佐藤 秀之）

お知らせ ●○●

2011年9月からサポセンの休館日が月2回になります

サポートセンターの建物が築20年以上となり、設備点検やメンテナンスに要する時間が増えてきました。

そのため、現在月1回となっている休館日を 2011年9月より月2回 とさせていただきますことになりました。

サポセンを安全にお使いいただくためですので、何卒ご理解ご協力いただけますよう、よろしく願いいたします。

休館日の変更について

■現在	毎月最終水曜日
↓	
■2011年9月より	毎月第2・第4水曜日
(9月の休館日	9/14・9/28)

※その日が祝日にあたる場合は、翌日が休館
※年末年始休館は今まで通りです

■問い合わせ先 仙台市市民活動サポートセンター
TEL 212-3010 FAX 268-4042



事業報告

市民活動カラフルフェスタ ～発見！体験！街ナカ市民活動～

11月28日(日)市民活動サポートセンター全館で開催しました！(共催:せんだいCARES2010実行委員会)

●ゲストトーク【6階セミナーホール】

「そのつばやきが社会を変えるチカラになる

国産Tシャツメーカー社長に学ぶ情報発信術」

ゲストの久米信行さんは、東京都墨田区にある国産Tシャツメーカー3代目社長を務める他、地元墨田区のまちづくりや、NPOの活動にも積極的に関わっていらっしゃいます。

今回は、ブログやツイッターなどの「ソーシャルメディア」が、NPOの情報発信の強い味方になることを、具体的な事例を交えながらお話ししていただきました。講座終了後、早速、ツイッターで久米さんとつながる参加者が何名も出るほど、わかりやすく、そしてすぐ始めたいくなる、そんな魅力あふれるゲストトークとなりました。参加者：41名。

※「ソーシャルメディア」については、次号「ばれっと3月号」で詳しく掲載予定です。

●NPO体験マーケット&フリマ

【5階交流サロン、4階研修室3・5、

3階研修室1・2】

市民活動団体・NPOによる活動体験と、フリーマーケットを同時開催しました。市民のみなさんにNPOの活動体験を通じて、団体についてより深く知っていただくことができました。

また、フリーマーケットでは、会話を楽しみながら価格交渉する場面も。お買い物は、団体を知り、応援するきっかけづくりとなったようです。

体験マーケット参加：9団体 参加者：延べ114名

フリーマーケット参加：11団体 参加者：延べ300名



写真：(左)体験マーケット (右)フリーマーケット

【地下1階市民活動シアター】

●パフォーマンス ステージ

サポセンの研修室では実現できない、音楽や踊りなどのパフォーマンス発表が、市民活動シアターを会場に行われました。「見る」だけではなく、「参加や体験ができる」ステージもあり、来場者、出演者、サポセンスタッフ全員が参加して楽しめる「カラフェスでしかできないステージ」となりました！参加：5団体 参加者：延べ93名

●サポセンCAFE【1階情報サロン】

サポセンに、1日限りのカフェがオープンしました。出店団体が普段取り扱っているお弁当やドーナツ・コーヒー、フェアトレード雑貨や生花などが販売され、中には早々と完売する商品もありました。

カフェの一角では、カホン(南米・ペルーの楽器)のワークショップも行われ、音に誘われて多くの方々が来店。賑わいのあるサポセンCAFEになりました。出店：5団体 来店者：延べ249名

●クイズラリー 【全館】

クイズに答えてシールを集めると、景品がもらえるクイズラリーをサポセン全館で実施しました。出題は参加団体の皆さん。クイズが会話の糸口となり、「活動のPRができた」との嬉しい声も聞こえてきました。景品提供：各プログラム参加団体の皆さん



写真：(左)ワークショップ (右)クイズラリー景品交換所

●街ナカ特別企画【一番町四丁目商店街】

一番町四丁目商店街展示

「発見！街ナカ市民活動」

一番町四丁目商店街に、サポセンとせんだいCARESの情報発信のため、ブースを設置しました。商店街を歩きかう皆さんにも、しっかりPR！

協力：一番町四丁目商店街振興組合



●カラフェス交流会

カラフェス参加団体、サポセン利用者、せんだいCARES参加団体、企業・行政の方が集まり、カラフェスの感想を語り合ったり名刺交換をしたりして交流を深めました。参加者：27名

写真：(上)パフォーマンスステージ (下)カラフェス交流会

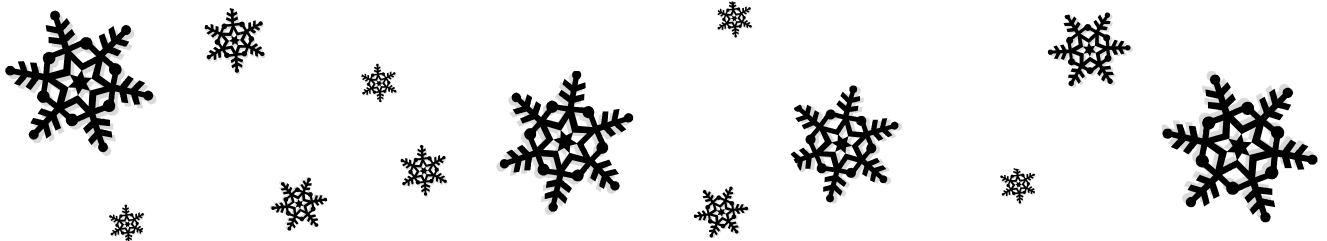


日時	イベント内容	会場	料金
2月9日(水) 13:30~17:30	○協働セミナー 行政とNPO・市民活動団体の協働について仕組みづくりを検討するセミナーです。 講師：IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所] 代表 川北 秀人さん	セミナー ホール (6F)	無料 (事前申込必要)
2月15日(火) 18:00~19:30	○ウィークデーシアター Scene.1「なつかし仙台お茶っこ座談会」 仙台の昔の映像を見ながら、お茶を飲みつつ気軽に語りあいませんか？(詳細は、近日中にサポセンHPに掲載します) 協力：特定非営利活動法人20世紀アーカイブ仙台	市民活動 シアター (B1F)	無料 (事前申込必要)
2月24日(木) 19:00~21:00	ONPOステップアップ講座Step3「報告書 de 情報公開」 「活動報告書」というツールを効果的に使って、情報発信の強化や信頼の獲得につなげましょう。報告書の必要性と作成のコツを学びます。 アドバイザー：特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター 助成金担当スタッフ 布田 剛	セミナー ホール (6F)	500円 (事前申込必要)

仙台市シニア活動支援センターからのお知らせ

< 申込み・問合せ > TEL 022-217-3983
仙台市シニア活動支援センター (サポセン3階)

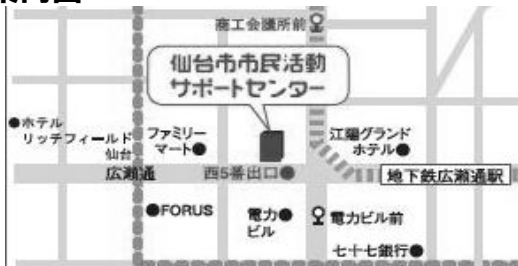
日時	イベント内容	会場	料金
2月22日(火) 18:30~20:30	◇セカンドライフセミナー(先着15名) 定年退職後、充実した生活を送るために、経済面の考え方、生きがいづくりなどについて学びます。 講師・相談員：シニア元気笑学校 校長 渡辺 源治さん	研修室5 (4F)	無料 (事前申込必要)



■ 仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やNPO、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちや、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

■ 案内図



○当施設に駐車場・駐輪場はございません。お車や自転車で来館される方は、周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。

注)路上駐車・駐輪は、周辺の迷惑となりますのでおやめください。

○ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。
[最寄のバス停]電力ビル前、商工会議所前
[地下鉄]広瀬通駅下車、西5番出口すぐ

■ 開館時間

○平日 午前9時～午後10時
○日曜・祝日 午前9時～午後6時

■ 休館日のお知らせ(施設点検等のため)

2/23

■ 編集後記

◆5月号から始まった「骨プロ施設見学」。今回で最後です。対応して下さった方々に感謝申し上げます。色々工夫してあったりして、私たちも勉強になりました。(菅野)
◆「食育NPOおむすび」では、協力者にも報告書を届けることで、活動への共感を得ているそうです。報告書作成のコツを学びたい方は2/24のNPOステップアップ講座をどうぞ！(太田)

発行:仙台市市民活動サポートセンター

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL:022-212-3010 FAX:022-268-4042

ホームページ <http://www.sapo-sen.jp>

発行日:2010年1月28日

編集:特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター

編集人:菅野祥子 太田貴

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行なっています。[指定管理期間:2010年4月1日~2015年3月31日]